



何をつなぎ、どうひろげる？災害時における連携協働実践

社会福祉法人広川町社会福祉協議会

令和5年7月豪雨災害 ～広川町災害ボランティアセンター～

広川町災害ボランティアセンター活動実績

【災害ボラセン開設期間】

令和5年7月12日(水)～9月10日(日)

【ニーズ受付件数】

7月12日～9月10日 97件(完了 80件、取下げ 17件)

9月11日～令和6年1月6日 8件(完了 8件)

【活動実績】

7月15日～9月10日 延活動件数:198件 延活動者数:1,372名

9月11日～令和6年1月6日 延活動件数:9件 延活動者数:54名

※閉所後の活動は、これまで登録いただいたボランティアの皆様と社協職員で対応しました。

運営支援

広川町、全国社会福祉協議会、福岡県社会福祉協議会、熊本県社会福祉協議会、中央共同募金会、福岡県共同募金会、大牟田市社会福祉協議会、筑後市社会福祉協議会、八女市社会福祉協議会、柳川市社会福祉協議会、みやま市社会福祉協議会、大川市社会福祉協議会、大木町社会福祉協議会、直方市社会福祉協議会、筑紫野市社会福祉協議会、久留米市社会福祉協議会、糸島市社会福祉協議会、那珂川市社会福祉協議会、うきは市社会福祉協議会、大刀洗町社会福祉協議会、宮若市社会福祉協議会、粕屋町社会福祉協議会、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）、八女青年会議所、宗像青年会議所、公立八女総合病院、社会福祉法人筑陽会、社会福祉法人多聞福祉会、下関東ロータリークラブ、ライオンズクラブ国際協会、日本財団、一般社団法人Camp、広川町職員労働組合、八女市職員労働組合、八女市社会福祉協議会評議会労働組合、福岡県経営者協議会青年会、福岡県自治労、自治労中筑後総支部、JAふくおか八女農業協同組合、有限会社広川衛生社、久留米ヤクルト販売株式会社、キリンビバレッジ株式会社、株式会社中島田鉄工所、エフコープ生活協同組合、株式会社大塚製薬工場、有限会社隈部建設、福岡銀行、筑後信用金庫、つるひさ整骨院、西日本新聞社、RKB毎日放送株式会社、おんが司法書士事務所、大橋鮮魚店、復興支援福岡、認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク、災害NGO結、特定非営利活動法人バルビー、被災地NGO協働センター、認定NPO法人日本レスキュー協会、NPO法人有明支縁会、特定非営利活動法人夢と希望、災害ボランティア支援隊決断、巨福山金泉寺、写真洗浄あらいぐま、立花住設、リコンストラクション・ジャパン、広川中学校、上広川小学校、中広川小学校、下広川小学校、広川町消防団、九州大学、八女高等学校、八女農業高等学校、西日本短期大学附属高等学校、八女学院高等学校、筑後北中学校、八女消防本部、広川消防署、YFD、広川町青少年育成町民会議推進部 他

この他にも、たくさんの方々にご協力をいただきました。

ありがとうございました！！

災害支援の本音(リアル) ～被災地(社協)の視点から～

ヒト(人)

- 被災地の人、組織、団体は被災者(にもなりうる)
- 災害が発生したら被災地(者)支援が優先？
 - = 平常業務も等しく優先度が高い
 - = 被災地の人、組織、団体として役割を果たせる状態にあるのか
- 災害支援の担い手は誰？
 - = 被災地の人々(住民、団体、企業、事業所、自治体など様々な主体) どこまでやれる？いつまでやれる？
 - = 自分たちがやる前提の各種災害対応マニュアルなど

ヒト(人)

被災地(者)支援におけるマンパワーの現実・・・

- 単独の組織、団体では不足するマンパワー
- 災害現場での活動経験(ノウハウ)がある人の質、量
- 関係職員、団体の皆さんの心身の負担と支援の調整
= 被災地の関係職員、団体としての使命感と時間の流れ
- 様々な主体と連携協働したいけど・・・
= 誰とならやれる？ どことならやれる？ 何をやる？

モノ(物)

被災地(者)支援における資機材等の確保～災害ボラセンとして～

- 資機材のストックに限界がある
- 被災地支援(災害ボラセン)における車両確保の重要性
- 機材だけではなく、飲料や食糧品の必要性
- ないモノは作る？必要な資機材には、入手することが難しいモノもある(ミニじょれん、かき板(小)など)
- 水害だけではない「災害」に対応できる資機材の確保
- センターの設置場所は想定どおり？

カネ(資金)

被災地(者)支援には資金が必要～災害ボラセンとして～

●自治体との協定に基づく資金

●赤い羽根共同募金を原資とする災害等準備金

=レンタカーなどを長期に利用する場合は特に注意が必要

●災害ボラセン閉所後の活動における活動資金は？

=自治体との協定の範囲外にある支援の財源

被災地(者)支援・・・

被災地の人、組織、団体
だけで完結することは
難しい・・・

どうする？

どうつながり・どうひろげる？

【ヒト】

- ・連携を仕組みにすること＝〇〇×□□連携協定、日頃の協働実践
- ・積極的に平時から専門性・実効性の高い団体(人)と連携しておくこと

【モノ】

- ・ブロック(エリア)による資機材共有(ストックヤード設置等)
- ・必要な資機材を必要な時に準備できる仕組み(提供、寄付、寄贈、貸与など)

【カネ】

- ・被災地(者)支援として活用できる資金の体系化と、基金や募金、クラウドファンディングなどの活用

**出来ないこと、苦手なこと、弱いところを
見える化する(知る・整理する)こと・・・逆も然り
その先にある連携と協働実践の創造**

どうつながり・どうひろげる？

大切なこと…

- ・誰のために、何のために
 - ・視点を合わせる、視線を合わせる
 - ・小さくても大きくても歩みを進める
- つまり…

心を合わせる

